

# 第115回ASCセミナー

日本アフリカ学会 関東支部 共催



事前登録こちら

## 『女性器切除はなぜ禁止されても続くのか — ガーナ・アッパー=イースト州の 事例から考える構造的不平等と女性の選択』

### 2026年7月22日(水)

場所: **【Hybrid】**

Online: ZoomMeeting / Onsite: 103 教室  
(東京外国語大学 研究講義棟 1F/ 府中キャンパス)

言語: 日本語・参加費: 無料

時間: 17時40分～19時10分 (日本時間)

**【講演者】 劉 瀟瀟 (リュウ・ショウショウ) 氏**

(東京外国語大学 大学院博士後期課程 共同サステイナビリティ研究専攻)

### 【要旨】

ガーナは1994年に女性器切除 (FGM) を法律で禁止しましたが、北部の一部では今もこの慣習が続いています。なぜFGMが続くのか。本研究は、フィールドワークに基づいて、この問いを検討します。FGMに関しては、従来からイスラム教や家父長制の影響が指摘されてきました。本研究はこれらの要因を構造的不平等の文脈で再解釈し、FGM 存続のメカニズムに新たな光を当てます。政府がFGMを「健康と人権の問題」としてのみ扱い、その裏にある貧困や資源配分の不平等といった問題を見過ごす限り、根絶への道は遠いままです。

キーワード: 女性器切除 (FGM)、ガーナ、構造的不平等、反FGM政策



現代アフリカ地域研究センター  
African Studies Center-TUFS

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1 (研究講義棟4階 401E-2号室)  
3-11-1 Asahicho, Fuchu, Tokyo 183-8534 Japan  
(Room 401E-2, Research and Lecture Bldg.)  
Email: asc@tufts.ac.jp